



男子スプリント 1/16F 敗者復活戦の中川

**シクリスムエコー No.192 ロンドン五輪特集号**



第30回オリンピック競技大会…………… 2

2012年JOCジュニアオリンピックカップ…………… 12

平成24年度全国高等学校総合体育大会…………… 14

競技大会結果…………… 16

各大会日本代表選手団…………… 17・18

人事異動…………… 18

加盟団体事務局住所変更…………… 18

連盟の動き…………… 18

日本新記録…………… 19

今後の大会予定…………… 19

ロンドン五輪PHOTO…………… 20

日本が生んだ世界のスポーツ

**KEIRIN**



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringing-keirin.jp>

# 第 30 回オリンピック競技大会

残念ながらメダル獲得ならず

KEIRIN   
この大会は競輪の補助金を受けて派遣されました



男子チームスプリント 8 位の日本チーム (新田・渡邊・中川)



女子スプリント 1/16F 敗者復活戦の前田



女子 MTB の片山



男子 MTB の山本

## 入村式の日本選手団



## ■日本選手団入村式

7月24日午前、オリンピックパーク内の選手村で日本選手団の入村式が行われた。3日続きの晴天のもと、そろいの JAPAN ジャージーを着た選手・スタッフ 110 名が、ロンドンの劇団によるミュージカル仕立ての式典をリラックスした様子で楽しんでいた。自転車の選手団は、唯一選手村入りしている女子ロードの萩原麻由子選手が、トレーニングを優先させて不参加。スタッフから松本監督と沖コーチの 2 名が参加した。

## ■トラック代表チーム ロンドン到着

7月25日午後、トラック代表の 4 選手が成田発の日航機でロンドン・ヒースロー空港に到着した。レスリングや陸上の選手に続いて到着ロビーに姿を現した 4 人は、リラックスした表情で待ち受けた報道陣のフラッシュを浴びた。またこの日の夜、男子ロードの 2 人もそれぞれの滞在先からロンドン入り。

これでロンドンオリンピック前半戦の日本チームの陣容が整った。

## ■トラック代表チーム 初練習

昨日選手村入りしたトラック代表チームの 4 選手は、26 日午前 11 時から、オリンピック本番の競技会場であるベロドロームでトラックトレーニングを行った。「今日は時差調整を兼ねた軽めのメニュー」（松本監督）ということで、選手たちはトラックの感触を確かめながら、体に刺激を与える程度の走りでおおよそ 2 時間のトレーニングを終えた。いよいよ開会式となる明日は警備上の理由でトラックは閉鎖。チームは明後日から本番に向けた最終調整を行う予定だ。

## ■ロード代表 3 選手 決戦を前に

いよいよロンドンオリンピック開幕の日を迎えた 27 日、決戦を明日・明

後日に控えたロード代表の 3 選手は、午前中から指定練習コースに出かけ最終調整を行った。ともに海外のチームに所属し、これまでグランツールを含む数々のレースで実績を積み上げてきた別府史之、新城幸也の 2 人は、このスピード展開が予想されるコースに自信をのぞかせた。



## ■男子ロード 別府 21 位 新城 47 位

華やかな開会式の余韻に浸る間もなく、ロンドンオリンピックは 28 日から競技が本格的にスタートした。自転車競技はこの日、オリンピックのオープニングイベントとして定着した観のある男子ロードレースが行われ、カザフスタンのアレクサンドル・ヴィノクロフが、コロンビアのウランとのゴールスプリントを制して、アジア勢として初の金メダルを獲得した。

日本から出場した別府史之、新城幸也の 2 人は、序盤から逃げグループに乗った別府が最後まで逃げ粘って、ヴィノクロフとウランを追う集団の中でフィニッシュ。3 位と同タイムの 21 位と健闘した。一方の新城は、逃げ集団を追うメイン集団の中でチャンスを待つ状態が続いたが、集団をコントロールするイギリス・ドイツ勢の失



男子ロード 逃げ集団の別府

速とともに追いつけるタイミングを逸し、最終 47 位の成績だった。

## □別府史之選手

「逃げが決まった瞬間、メンバーがみんなワールドツアーの選手だったので、これは行けるなという感じがありました。ボックスヒル（丘陵地帯の周回コース）に入ると道が狭くなるのはわかっていたので、集団の前において正解でした。最後は脚をためてゴールスプリントに備えていたのですが、ゴールまでの残り距離の表示が分かりづらくて、気付いたらゴールでした。メダルには手が届かなかったけど、全力は尽くせたので満足のいく結果ですね。2 回目のオリンピックでしたけど、逃げて着にもからむ結果だったので、北京（途中棄権）の時のリベンジはできました。」

## □新城幸也選手

「これがレースですけど、脚が余ってるのが悔しいですね。序盤に決まった逃げには、僕は最初から乗るつもりはなかったので静観していました。でも途中追撃に出るチャンスはあったけど行かなかったのが悔やまれます。特にジルベールが仕掛けたとき僕は前にいたんですけど、それを見送ってしまったのが失敗でしたね。まだ早いと思ってしまって。最後の 40km はイギリスとドイツが集団をコントロールしていたので、逃げ集団をすぐに捕まえるだろうと思っていたんですけど。まあ結局前が勝ったということですね。これがレースです。初めてのオリンピックでこの結果でしたけど手応えはつかめました。やはりツール・ド・フランスなどこれまで走ってきた経験が今日のレースに活かせたと思います。上がりたときに上がって、休みたいときに集団の後方で休むといった思うような走りができたことは、これでまた経験値があがったかなと思います。」

## ■女子ロード 優勝はフォス 萩原は DNF

ロンドンオリンピック競技 2 日目の 29 日、自転車競技は昨日の男子ロードレースに続いて女子のロードレースが行われた。コースは男子と同じだが、途中の丘陵地帯・ボックスヒルの周回コースが 2 周（男子は 9 周）となるため総距離 149.5km の戦いとなった。

雨が降ったり日が差したりと天候が



不安定な中行われたレースは、残り50kmを切って抜け出した3人によるゴールスプリントとなり、オランダの実力者、マリアヌ・フォスが優勝を遂げた。日本から出場した萩原麻由子は、ボックスヒルの周回コースに入るまではメイン集団をキープするも、周回コースに入って最初の上りで引き離され、結局タイムアウトでゴールできずに初めてのオリンピックを終えた。

#### □萩原麻由子選手

「途中で終わってしまったので何とも言えないですけど、これが今の私の実力だなと思いました。別府さんにアドバイスを受けて最初から集団の前にいたんですけど、大事なときに後ろに下がってしまってそれっきりでした。ボックスヒルに入るまではそれほどスピードではなかったんですけど、入った最初の上りで引き離されてしまいました。展開云々よりも単に私の力がなかっただけだと思います。」

#### ■トラックチーム 練習4日目

トラック競技開幕まであと3日となった30日、日本のトラックチームはベロドロームで4日目のトラック練習を行った。25日の初練習の時はトラックはほぼ貸し切り状態だったが、今日はオランダ、ニュージーランド、スペイン、ポーランドなど、日本と同じ組でトレーニングを行うチームが揃い、本番が近づいていることを感じさせた。

今の段階はトレーニングと言っても本番に向けたコンディショニングが主で、この日の日本チームは、体に刺激を与えるためのダッシュトレーニングと、男子3人は大会初日に行われるチームスプリントのスタート練習で2時間の指定練習時間を終えた。

松本監督は練習後今のチームの状態について、「良い感じで仕上がってき

ています。できる範囲のことは今やれているので、あとは選手の集中力がうまく上がっていくように持って行くだけでね。」と、ここまでの調整の順調さを口にした。日本のグループが練習を終わる頃、次の練習グループに入っているフランスやイギリスの選手がトラックに姿を見せた。ボジェ、シロー、ペンドルトンと日本選手の前に立ちただかるライバルたちも、仕上げは最終段階に入っている。

#### ■トラックチーム 最終調整

トラック競技開幕まで今日明日を残すのみとなった31日、日本のトラックチームは朝9時からベロドロームで、チームとしては本番前最後となる調整を行った。明日は別府史之が出場するロード競技のタイムトライアルが行われるため、トラック練習にはスタッフが出せずチームとしての練習はなし。1つの自転車競技チームとして、限られたスタッフ数の中で4つの競技(ロード、トラック、マウンテンバイク、BMX)をやりくりしないとけないのがオリンピックの現実だ。

ただ今日の練習を、疲れをとるため休みとした渡邊一成は、明日自分なりの最終調整を指定練習時間に行う予定だ。さて、今日のチーム練習も、昨日同様フライングダッシュとチームスプリントのスタート練習に終始した。競技開始までの不安な時は今日を入れてあと2日。「やれることは全てやった」。各選手が口にするその言葉が、押し寄せるプレッシャーをはねのけ、自分を信じる力になってくれればいい。

#### ■男子ロードタイムトライアル

##### 優勝はウィギンズ 別府は24位

8月1日、ロード競技の最終種目、タイムトライアルが、ロンドン郊外のハンプトンコートパレス(16世紀に造られた宮殿)前をスタート・フィニッシュ地点に、女子29km、男子44kmの距離で行われた。

24選手が参加した女子は、前回の北京大会の優勝者、そして今大会も優勝候補の筆頭に挙げられたアメリカのクリスティン・アームストロングが、2位に15秒差をつけて2大会連続の金メダル獲得となった。アームストロングは2009年に一度家族との時間を作ることを理由に引退。その後出産もあったが、2011年、オリンピックへの夢を捨て切れず競技へ復帰。そ

してこの日の金メダルとなった。アームストロングはレース後の記者会見で「どんな結果であろうとここで引退を決めていた」と再び引退を表明した。

女子に続いて行われた男子のタイムトライアルは、今年のツール・ド・フランスの覇者、地元イギリスのブラッドリー・ウィギンズが、観客の大声援を背に、2位に42秒の大差をつけて優勝を果たした。イギリス選手のロード競技での金メダル獲得は初。またウィギンズはこれで、トラック、ロード併せてイギリス初の7個目のオリンピックメダル保持者となり、母国のスポーツ史にその名を刻むこととなった。

日本から出場した別府史之は、トップと5分1秒差の24位。前半抑えめで走り後半にペースを上げる作戦で臨んだが、終盤の向かい風や、無線の故障などでペースを乱されタイムが伸びなかったという。しかし別府は、今回のオリンピックにおける自分の走り自体には、自らの成長を感じたという。

#### □別府史之選手

「今回のオリンピックは、去年の段階で出場の内定をもらっていたこともありベストコンディションで臨むことができました。ロードレース、タイムトライアルともにメダルとまでは行きませんが、自分の走りには満足しています。前回の北京の時は高地トレーニングに失敗して悔しい思いをしたのですが、その後の4年間でしっかり力をつけ、経験を積み、いろんな勉強をして、精神的にも肉体的にも成長できたことが



男子個人TT 24位の別府



今回の走りに繋がったんだと思います。またつい先日、僕の自転車の恩師が亡くなってしまったのですがその方にも、今回の自分の走りは喜んでもらえると思います。」

4年に一度のチャレンジは終わり、別府は再び、日常とするワールドツアー（世界トップのレースカテゴリー）に戦いの場を戻す。

## ■男子チームスプリント

### 優勝はイギリス 日本は8位

トラック競技が開幕した2日、競技会場のベロドロームは、イギリスのトラック競技への期待度を表すように、午後3時の開場と同時に満席となる盛況ぶりを見せた。この日行われた種目は、決勝まで行われた男女チームスプリントと、予選のみが行われた男子団体追抜競走の3種目。そんな中男子チームスプリントは、決勝に進んだ地元イギリス（第1走ハインズ、第2走ケニー、第3走ホイ）が、世界新記録で宿敵フランス（第1走ボジエ、第2走シロー、第3走ダルメイダ）を破るという劇的な終わり方で、詰めかけた観客を歓喜と興奮の渦に巻き込んだ。

一方、新田祐大、渡邊一成、そして中川誠一郎の3人がメダル獲得の期待を背に戦いに臨んだ日本は、予選で第1走の新田祐大に、スタート直後にペダルが外れるというトラブルがあり失速。それでもなんとか予選は突破したものの、1対1の対戦方式となる次の1回戦では優勝したイギリスとあたり、あえなく敗退となってしまった。予選では、日本はスタートで1度ライジングを取られていたため、ルール上

2度目の失敗は許されず、新田はクリップバンドだけの状態で走らざるを得なかった。チームスプリントの第1走が今回の、しかも初めてのオリンピックの全てだった新田にとって、悔いの残る結果となった。

もう一つの決勝種目、女子チームスプリントは、男子とは対照的に波乱の展開となった。まずは予選で世界新記録を出した地元イギリス（第1走バーニッシュ、第2走ベンデルトン）が、次の1回戦で、先頭交代時の走行違反をとられ、勝ってはいたものの降格。そして中国とドイツの対戦となった決勝では、予選・1回戦とたて続けに世界新記録を叩きだし勝ち上がった中国（第1走宮金傑、第2走郭爽）が、これも先にフィニッシュしていたものと同じ走行違反で降格となり、ドイツ（第1走ヴェルテ、第2走フォーゲル）の優勝となった。今年4月に行われた世界選手権でも男子に同様の波乱があったが、それがまさに伏線となっていたと思えるような結末となった。

トラック競技は初日にして世界記録更新が6回と、見る側にとっては残り5日間に行われるレースへの期待が大いに膨らむスタートとなった。その反面女子チームスプリントにあった2回の降格。また男子チームスプリントで優勝候補の筆頭に挙げられていたドイツが、レース開始30分前に、第3走を務める1kmタイムトライアルの世界チャンピオン・ニムケを背中での痛みで欠くなど、日本のアクシデントを含め不測の事態もいくつかあった。期待と不安。オリンピックには女神と魔物が同居している。

## □新田祐大選手

「良い経験になりました。この4年間努力はしてきたのですが、改めて世界との差を痛感しました。走る前は良い感じで集中はできていたと思います。でも力みもいつも以上に出てしまって、ペダルが外れるということになってしまいました。1回戦では相手は世界新ということもあり大差で負けてしまったのですが、悔しいという感情より今のままでは全然ダメだなということ強く思いました。悔いはかなり残っています。それを晴らすため自分の中ではもう次のオリンピックを目指そうという気持ちがあります。また一からがんばります。」

## □渡邊一成選手

「今日は自分がかかなり良い状態というのを感じてレースに臨めました。でも終わってみれば世界との差を見せつけられたというのが感想ですね。予選で43秒台の半ばぐらいを出せていれば、結果は変わっていたと思いますけどね。個人の走りとしては第2走としてのベストタイムも更新できたし、今までやってきたことの成果が出た走りはできたと思います。次はケイリンですが、今の調子でいけばメダルを狙える走りはできているので、レースがある7日まで、気負いとか緊張が出ないようにリラックスして備えたいです。」

## □中川誠一郎選手

「スタートまではちょっと緊張もあったのですが、スタートしたらオリンピックというのは忘れてましたね。集中できていたと思います。予選は自分のベストタイムだったし1回戦も良い感じで走れました。この成績に関しては、3人が力を出し切った結果なので悔いはありません。次はスプリントですが、まずは最初のハロンで自己ベストを狙っていきます。」

## ■女子ケイリン初代オリンピック

### チャンピオンはベンデルトン

トラック競技2日目の3日、競技は女子ケイリンと男子団体追抜競走の2つの種目で決勝までの戦いが行われ、両種目とも地元イギリスが勝利の凱歌をあげた。

オリンピック初開催となった女子ケイリンには18選手が参加。1回戦から白熱したレースが展開される中、決

勝には、イギリスのペンドルトン、オーストラリアのメアーズ、中国の郭爽、フランスのサンチェス、カナダのサリバン、そして香港の李慧詩という6選手が勝ち上がった。レースは残り2周半のペーサー退避後、激しい主導権争いが繰り広げられたが、残り1周となると後方から踏み上げたペンドルトンが一気に先行。ゴール前郭爽の強烈な追い上げを振り切って、女子ケイリン初代オリンピックチャンピオンの座に着いた。

ペンドルトンは前回の北京大会のスプリントに続いて、これでオリンピックの金メダルは2個目となった。2位には中国の郭爽。3位には郭爽マークの香港の李慧詩が入り、アジア勢2人がメダル獲得となった。今季限りの引退を表明しているペンドルトン。次は5日から行われるスプリントで3つ目の金メダル獲得を目指す。

昨日予選が行われた男子団体追抜競走は、この日1回戦と決定戦が行われ、予選で世界新記録を出した地元イギリスが、決勝で再び世界新記録となる3分51秒659という驚異的なタイムを叩き出して優勝。前回の北京大会に続いて、大会2連覇を達成した。イギリスはこれで、この2日間で行われた4つの決勝種目のうち3つで金メダル獲得となった。

この日出場種目がなかった日本は、この日の競技開始前におよそ1時間半のトラックレーニングを行った。4日の男子スプリント出場を控える中川誠一郎、5日の女子スプリント出場を控える前田佳代乃、そしてトラック競技最終日の7日に男子ケイリン出場を控える渡邊一成がそろって汗を流した。

### ■男子スプリント 中川は最終成績9位

8月4日、トラック競技3日目。競技は男子スプリントの1/8決勝までと男子オムニアムの1日目3種目、そして1回戦とメダル決定戦が行われる女子団体追い抜きの3種目で熱戦が繰り広げられた。

男子スプリントに出場した日本の中川誠一郎は、この日の午前中に行われた予選200mタイムトライアルを、緊張からくる力みなのか、スピードが今ひとつ伸びず7位のタイム(10"144)で通過した。そして本選最初の1/16決勝の相手は予選12位(10"247)のアメリカのワトキンス。普段の中川

ならここは難なくクリアできるはずが、この時も体の力みが取れず、予選タイム下位の選手に対し、勝負どころの踏み後れから不覚をとってしまった。

そして昼をはさんで4時間半ほどのブレイクを置いて迎えた1/16決勝敗者復活戦。ここでようやく持ち直した中川は、ポーランドのジリンスキーを相手に、得意とするゴール前の追い込みを決め1/8決勝に駒を進めた。

しかし次の相手は今年の世界チャンピオンであり、このオリンピックでも優勝候補の筆頭に挙げられているフランスのボジェ(予選タイム2位-9"952)。やはり最初の1/16決勝での敗戦が、勝ち上がりを厳しくしてしまった。中川はボジェに対し必死の逃げを打つも、踏み出しともにあっさり交わされ2着。その後敗者復活戦に最後の望みをかけたが、マレーシアのアワンの巧みなレース運びに屈し、この時点で上位への勝ち上がりの夢は潰れてしまった。

中川は最後に出場した9-12位の順位決定戦では気力の走りで1着を勝ち取り、最終成績9位で初めてのオリンピックを終えた。男子スプリント、明日はベスト8の戦いから始まる。

女子団体追抜は地元イギリスの圧勝に終わった。昨日の予選で3分15秒669の世界新記録を出したイギリスは、今日行われた1回戦でこの記録を1秒近く縮める3分14秒682の世界新記録。そして決勝でもさらに0コンマ631縮める3分14秒051を叩き出し、昨日の男子に続いて女子も世界新記録で優勝を飾った。イギリスはここまでに決勝が行われた5種目中4種目で金メダル。誰もこの勢いを止められないのか。

### □中川誠一郎選手

「レース前は緊張というか、両肩に重りが乗っているような、初めて経験する体の重さを感じました。普段はあまり緊張しない方なのですが、緊張しているのも分からないくらい緊張していたのかも知れないです。それで予選は体が硬くなって思うようにタイムが伸びませんでした。チームスプリントの時は仲間がいたのでこんな重圧は感じなかったのですが、今日は1人だったので…。仲間がいることのありがたみがすごく分かりました。それでも本選に入ってから状態が良くなって自分なり



に戦えると思ったのですが、やはり4年に一度のこうしたすごい舞台なんで、他の選手の仕上がり具合が、ワールドカップなんかとは全然違うなあということを実感しました。最後の順位決定戦は何とか意地が見せられたかなと思います。

オリンピックには出場できるだけで満足と思っていたのですが、やはり負けると悔しいですね。オリンピックを目指そうと思うきっかけを作ってくれた人とか、この3ヵ月練習だけに専念させてもらった環境などにしっかりと感謝して、次のオリンピックのことはまだ考えられませんが、まだ世界の舞台では戦えると思うので、それを目標に進んでいきたいと思います。オリンピックは楽しいところですが、それと同じくらい厳しい場所でもありました。」

### ■女子スプリント 前田は1/16F敗退

ロンドンオリンピックは今日8月5日で競技9日目。16日間の日程の半分を越えた。自転車トラック競技は今日で4日目。日本から前田佳代乃が出場した女子スプリントが1/8決勝まで。昨日から行われている男子スプリントは1/4決勝。そして男子オムニアムは2日目の3種目が行われた。

女子スプリントに出場した前田は、予選で日本記録でもある自己ベスト(11"237)を更新することを目標に、参加18選手中2番目にスタートを切った。しかし、やはり緊張からかスピードの伸びを欠き、タイムは目標には遠く及ばない11秒600で17位という成績だった。今回の予選は本選最初の1/16決勝の組合せを決めるためのもので、下から2番目のタイムの前田は、その1/16決勝で予選タイム10"724で2位のオーストラリアのメアーズと対戦することとなった。

メアーズは2011年の世界チャンピ

オンであり、オリンピックでは前回の北京大会の銀メダリストでもある。前田はこのレース、そんな強豪を相手に先行から逃げ切りを図るも、やはり力の差は明らかで、ゴール手前であっさりと抜かれてしまった。

そして勝ち上がりのラストチャンスとなった1/16決勝敗者復活戦。ここでも前田は、カナダと韓国の選手を相手に先行策をとるも、残り1周を切ったところで交わされフィニッシュは3着。前田の上位進出の道はここで閉ざされ、初めてのオリンピックは終わった。

#### □前田佳代乃選手

「レース前はそんなに緊張はしていなかったし、コンディションも良かったです。でも予選では、原因はよく分からないですけど、なにか気持ちと体が合っていない感じで目標タイムが出せませんでした。これが今の力だと思います。1/16決勝のメアーズ選手との対戦は、今はとてもかなわない相手ですが、世界トップの選手とこのオリンピックという舞台で勝負できたことは、絶対次に生きてくる経験だと前向きにとらえています。

まだこの先(大学卒業後)の進路は決まってませんが、もっと強くなれる環境を求めて力をつけたいと思います。そしてまたこの場所に戻ってきたいです。昨日の女子ケイリンで銅メダルを獲った香港の李慧詩選手は、ずっと仲良くしてもらっている選手で、私が目標として追いかけている選手でもあります。彼女がメダルを獲ったことで、“4年後は絶対

私もこうなるぞ”と、目標がより明確になりました。

初めてのオリンピックは、今の自分の力の通知表を渡されたような感じでした。次は絶対もっと良い点をとれるようにしたいです。」

男子スプリントは今日1/4決勝が行われ、イギリスのケニー、フランスのボジェ、オーストラリアのパーキンス、そしてトリニダード・トバゴのフィリップが明日の準決勝に駒を進めた。明日はケニー対フィリップ、ボジェ対パーキンスの組合せで準決勝が行われ、その後決勝と3位決定戦でメダルの色が決められる。メディアの注目は早くも、男子はケニー対ボジェ、女子はペンドルトン対メアーズの、因縁のライバル対決に集まっている。

オリンピック新種目、男子オムニウムは5種目を終わった時点でデンマークのハンセン、イタリアのヴィヴィアーニ、そしてフランスのコキヤードが同じ25ポイントで並ぶという接戦となった。そして最終種目の1kmタイムトライアルで、ハンセンが2位、ヴィヴィアーニが9位、そしてコキヤードが4位となり、デンマークのハンセンがオムニウム初代オリンピックチャンピオンの座に着いた。なおこの1kmタイムトライアルで1位となった地元イギリスのクランシーのタイムは1分0秒981。単独の種目として行われた今年の世界選手権では4位に入るタイムだった。

トラック競技4日目にして初めて、イギリス以外の国歌で1日が終わった。

#### ■男子スプリント

##### 金メダルはイギリスのケニー

トラック競技5日目の6日、男子スプリントは準決勝・決勝が行われ、戦前の予想通り、決勝はイギリスのケニーとフランスのボジェのライバル対決となった。今年4月の世界選手権でも決勝で顔を合わせたこの2人。その時はボジェ先制で迎えた2回戦で、ケニーが走行違反をとられ降格。ボジェが3度目の世界チャンピオンの座についている。またその前年の世界選手権も2人は決勝で対戦しボジェが勝ってはいるが、その後ボジェがドーピング検査に関する規定違反で記録剥奪のペナルティを受け、ケニーが繰り上がりで世界チャンピオンとなっている。

こうした過去の対戦成績を見れば

ボジェの力が上のようにも見えるが今回は違った。決勝1回戦、ボジェ先行のままレースは最終周回へ。最終バック手前で踏み出したケニーは、すぐに逃げるボジェを捕まえ、ゴール手前で抜き去って先勝。この時点で今回の出来の違いは明らかだった。そして、続く2回戦はケニーが先行。途中ボジェのトリッキーな動きにも惑わされず、最終周回に入る手前で一気にスパート。ボジェ必死の追走も背中すら捕らえることができず、ケニーがそのまま逃げ切り勝ちを収めた。ケニーが強いという印象は予選の時からあったが、こんなにも簡単にあのボジェを打ち負かすとは想像すらできなかった。

ケニーはこれで今大会チームスプリントに続いて2つ目の金メダル。イギリスチームとしてはこれで4つ目の金メダルとなった。なお3位決定戦はオーストラリアのパーキンスがトリニダード・トバゴのフィリップをストレートで破り銅メダルを獲得した。

女子スプリントはこの日1/4決勝が行われ、イギリスのペンドルトン、オーストラリアのメアーズ、中国の郭爽、そしてドイツのフォーゲルが明日の準決勝に駒を進めた。こちらもペンドルトンとメアーズのライバル対決に注目が集まっているが、ペンドルトンの出来はケニー同様今回群を抜いて良い印象だ。

またこの日1日目の競技が行われた女子オムニウムでも、イギリスのトロットが暫定トップの座に着いている。イギリス旋風は未だ吹き止まず。トラック競技も残すところあと1日。明日はいよいよ日本の渡邊一成が金メダル獲得を目指して男子ケイリンに出場する。渡邊はこの日、競技開始前のトラックで最終調整を行い明日に備えた。

#### ■男子ケイリン ホイが大会2連覇

##### 渡邊一成は準決勝敗退

男女併せて全10種目で熱戦が繰り広げられてきたトラック競技も今日7日が最終日。レースは、男子ケイリン、女子オムニウム、そして女子スプリントの3種目で決勝が行われ、トラック競技全てのメダルの行方が決まった。

まずは日本期待の渡邊一成出場の男子ケイリン。この日の最初のレースとし午前10時から行われた1回戦、渡邊は前回の北京大会の覇者であり今年の世界チャンピオンであるイギリス



女子スプリント1/16Fの前田

のクリス・ホイと同じ第1組で出走となった。

スタートと同時に先頭を取ったのはニュージーランドのバンベルトホーベン。その後ろにトリニダード・トバゴのフィリップがつき、渡邊は3番手。そしてその後ろにホイがつき、コロンビアのパラルタ、ロシアのポリゾフと続く。レースはペーサーが退避する残り2周半で動いた。最初に踏み出したのは、なんと渡邊の後ろ4番手につけていたホイ。周回中ホイの動きはその他全員が警戒していたものの、虚を突くような早い段階での始動に全員が浮き足立ち、渡邊もこの混乱の中最後尾に置かれてしまう。

ホイは残り2周手前で先頭に出たフィリップの2番手に入り、残り1周手前で再び踏み出し主導権を取り切る。そしてそのままハイスピードで逃げ切ってフィニッシュ。場内にわき起こる歓声のボルテージは一気に最高位に達した。渡邊は残り1周で巻き返しを試みるもあえなく6着フィニッシュ。この後の敗者復活戦に勝ち上がりの望みをかけることとなった。

そして2レース各6人で行われた敗者復活戦。3着までに入れば準決勝となる2回戦に進むことができる。第2組に出場した渡邊は、周回は最後尾につけてチャンスを待つ。そしてペーサー退避後の残り2周、集団が牽制状態に入ったところで踏み出し、前5人を抜き去り残り1周手前で先頭に躍り出た。そして渡邊は最後までそのスピードを維持して1着フィニッシュ。第一の関門を突破して2回戦進出を

決めた。

昼のプレイクを挟んで午後の部に行われた男子ケイリン2回戦。3着までに入れば決勝進出となる。渡邊が出場する第2組のメンバーは、ドイツのレビー、オーストラリアのパーキンス、フランスのブルガンと強豪スプリンターが顔をそろえる。

スタート後やや位置取りで競り合いはあったものの2周目には折り合いが付き、渡邊は4番手。先頭にはパーキンス、2番手にレビー、3番手にニュージーランドのバンベルトホーベン。そして渡邊を挟んでブルガン、ベネズエラのカネロンと続く。

レースは残り2周半のペーサー退避とともに動いた。牽制状態に入った隊列から、渡邊の後ろ5番手につけていたブルガンがスパート、これにカネロンが続きレースが一気にヒートアップする。この2人の上昇で最後尾となった渡邊は、外に膨らんだ集団を見てインに進路をとる。しかし中に切れ込むほどにはスピードが伸びない。渡邊はこの混戦の集団後方でインに詰まるという最悪の形となってしまった。残り1周、渡邊は外をふさがれた状態の5番手。こうなってしまうと、この日の渡邊には打つ手はなかった。渡邊は最終バック過ぎにはレースを諦めた状態で6着フィニッシュ。夢と意地と思いをかけて挑んだ2度目のオリンピックは、再び悔しさだけを残して終わった。

渡邊はこの後7-12位の順位決定戦に出場したが、力ない走りでも5着。最終11位という結果だった。

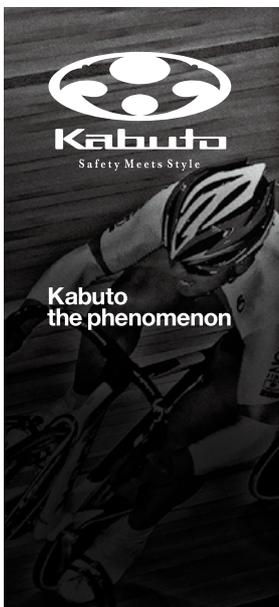


#### □渡邊一成選手

「悔しさだけが残るオリンピックになりました。緊張が全てですね。いつもの自分じゃありませんでした。2回戦を走る前は感じは良かったのですが、走り出したらダメでした。展開も見えてませんでした。一度ブルガンに締められてから頭が真っ白になりました。レースに参加できてなかったですね。原因は分からないけど、やっぱり見えないプレッシャーがあったと思いますし、自分でそれを知らないうちに高めてたのかも知れません。

今はまだ先のことは考えられません。この4年間がんばってきたことが今日のこんな結果として表れたばかりなので、少し時間が欲しいです。やれることは全てやったつもりですけど、まだまだ足りなかったということだと思います。応援してくれた人たちには申し訳ない気持ちで一杯です。」

イギリスのホイ、オーストラリアのパーキンス、ドイツのレビー、マレー



シアのアワン、オランダのムルダー、そしてニュージーランドのバンベルトホーベンという顔ぶれで行われた男子ケイリン決勝。

レースはペーサー退避とともに3番手から踏み出したホイが残り、2周となるところで主導権を取り切る。そのまま逃げの態勢に入ったホイだが、フィニッシュまでの距離はまだ長い。そして残り1周、2番手につけていたドイツの元世界チャンピオン、レビーが満を持してスパート、ホイの逃げを捕らえにかかると。しかしここからがホイのホイたる所以。並走状態のまま最終バックで一度はレビーを前に出すが、最終コーナーで再び抜き返してフィニッシュ。

36歳という年齢からは考えられない驚異的なパワーを見せつけ、ケイリンでは2大会連続、今大会はチームスプリントに続いて2個目、そして生涯獲得数はイギリス記録となる6個目の金メダルを勝ち取った。2位銀メダルにはレビー、3位銅メダルは同着でムルダーとバンベルトホーベンが分け合った。

女子スプリント決勝は、大方の予想通り、前回の北京大会の覇者であり今年の世界チャンピオン、イギリスのペンデルトンと、北京大会ではペンデルトンに敗れて銀メダルとなったオーストラリアのメアーズのライバル対決となった。

1回戦は激しいデッドヒートの末、逃げたペンデルトンの勝利と一度はアナウンスされたが、ペンデルトンのゴール手前の走りにスプリンターレーンを外す走行違反があり降格。続く2回戦は、心理的に優位に立ったメアーズが巧妙なレース運びでペンデルトンを追い込み、最後は逃げたペンデルトンを最終コーナーできっちり捕らえてフィニッシュ。北京の雪辱を果たすとともに、2004年アテネ大会の500mタイムトライアルに続く自身2個目のオリンピック金メダルとなった。

女子オムニウム。これはまさに地元イギリスが作ったかのようなシナリオ通りの劇的な幕切れとなった。今日の競技が始まる時点では同ポイントでトップに並んでいたイギリス20歳のニューヒロイン、トロットとアメリカのハマーだったが、5種目目のスクラッチが終わった時点でハマーが2ポイントリード。

これを最終種目の500mタイムトライアルでトロットがひっくり返した。最終組でホーム・バックに分かれて同時にトライアルの臨んだ2人。結果はリードしていたハマーが35秒990で4位。そしてトロットが35秒110で1位。これで総合順位はトロットが1ポイント逆転で金メダル獲得となった。

タイム表示と順位が出た瞬間、観客は悲鳴に近い歓声を上げ、トロットの快挙を祝福した。トラック競技は今日で全日程を終了した。イギリスは北京大会に続いて、トラック競技全10種目中7種目で金メダル獲得となった。自転車競技は明日からBMXに移る。

### ■ BMX 始まる

8月8日、ロンドンオリンピックも11日目を迎え、全16日間の競技日程も終盤に入った。自転車競技は前回の北京大会からオリンピック競技となったBMXが、今日から3日間の日程で始まった。

会場は、昨日まで地元イギリス勢の活躍で大盛り上がりだったベドロームのすぐ隣にあり、今後この2つの競技施設を中心にした周辺一帯はロンドン・ベロパーク(ロンドン自転車公園)という名称で、競技やレジャーの拠点として活用される予定だ。座席数6000の仮設スタンドに囲まれたトラックは、高さ8mのスタート台と3つの複雑なコーナー、そして直線部分にはリズムセクションにジャンプを複合的に組み合わせた難易度の高い構成になっている。ここに男子は450m、女子は440mのコースを設定してレースは行われる。参加選手は男子32人・女子16人。

今日はシーディングランと呼ばれるタイムトライアルが行われ、明日の男子準々決勝、明後日の女子準決勝の組合せが決められた。なおシーディングランのトップタイムは、女子はオーストラリアのブキャナンでタイムは38秒434。男子はオランダのヴァンデルビーゼンでタイムは37秒779だった。

### ■ BMX 男子準々決勝

8月9日、ロンドンオリンピックBMXは男子の準々決勝が行われた。昨日のシーディングランの成績をもとに分けられた4組(各8人)が、それぞれ全部で5回のレースを行い、各組順位合計で点数が低い順に4人が

明日の準決勝に勝ち上がる。最初の3回の順位合計でまず1・2位の選手が勝ち上がり、残り2回のレースであとの2人を決めるというルールだ。

全レースを終え準決勝に勝ち上がった16人は、ほぼシーディングラン上位者が占めた。中でもシーディングラントップタイムのヴァンデルビーゼン(オランダ)と同4位のフィールズ(アメリカ)は最初の3回を全て1着と、好調さを伺わせた。また北京大会の覇者ストロムベルグス(ラトビア)や今年の世界チャンピオン・ウィロビー(オーストラリア)ら有力選手も順当に勝ち上がった。

### ■ BMX ストロムベルグス

#### 2大会連続金メダル

BMX最終日の10日、レースは女子男子ともに準決勝・決勝が行われ、女子は2011年の世界チャンピオン、コロンビアのマリアナ・パホンが、男子は前回の北京大会の覇者ラトビアのマリス・ストロムベルグスが激戦を制し、オリンピックチャンピオンの座に着いた。

女子決勝に勝ち上がったのは、準決勝第1組からブキャナン(オーストラリア)、リード(イギリス)、クレイン(アメリカ)、ル・コルギーユ(フランス)の4選手。そして第2組からパホン(コロンビア)、ポティエ(フランス)、スマルダー(オランダ)、ウォーカー(ニュージーランド)の4選手の計8選手。3レース行われた準決勝の走りからはブキャナン、リード、パホン、ポティエといったところの好調さが目に付いた。

レースはスタートと同時にインから4番目の位置のパホンが半車輪ほど他の選手をリードして1コーナーへ。この最初で最大のポイントをトップで通過したパホンはそのままフィニッシュまでそのポジションを守り切り1着。スタートダッシュの成功が金メダルを呼び寄せた。逆にこのスタートダッシュに失敗した地元イギリス期待のリードは6位。予選から好調な走りを見せていたブキャナンは5位という結果だった。銀メダルはニュージーランドのサラ・ウォーカー。そして銅メダルは、まだ18歳の新鋭、オランダのローラ・スマルダーが勝ち取った。

続いて行われた男子決勝は、フィールズ(アメリカ)、ヴァンデルビーゼン(オランダ)、フィリップ(イギリス)、ヒメ

ネス・カイセド(コロンビア)、ウィロビー(オーストラリア)、ヴァンヘント(オランダ)、ストロムベルグス(ラトビア)、そしてオケンド・ザバラ(コロンビア)の8選手によって争われた。この日好調さを見せたのは、今年の世界チャンピオン、ウィロビーにアメリカチャンピオンのフィールズ。メディアの注目もこの2人に集まった。

スタートは横一線からストロムベルグス、フィリップ、ウィロビー、そして、ヴァンデルビーゼンの4選手がややリード。しかし第1コーナーに入る手前でストロムベルグスが半車身ほど抜け出してそのまま1コーナーを通過。ここで勝負は決まった。女子同様第1コーナーで決定的なリードを手にしたストロムベルグスは、そのままパワフルかつしなやかな走りで後続を振り切り、2大会連続の金メダルを勝ち取った。2位銀メダルはオーストラリアのサム・ウィロビー。3位銅メダルはコロンビアのオケンド・ザバラという結果だった。

自転車競技は明日からいよいよロンドンオリンピック最後の競技、マウンテンバイクが始まる。日本からは明日11日に行われる女子クロスカントリーに片山梨絵、12日の男子クロスカントリーには山本幸平の日本チャンピオン2人が出場する。片山は7日に山本は6日にロンドンに入り、競技会場となるロンドン郊外のハードレー・ファームで調整に努めている。

日本チームの鈴木雷太コーチによると、「2人とも調子はいいですよ。どちらも初めてのオリンピックではないので落ち着いてやるべき事をやっています。コースは岩場など人工セクションがすごく巧妙かつダイナミックにつくってあるので、そこをどう攻略するかがポイントになると思います。スピードが出やすいコースなので、スタートループを終えて本コースに入った時にどれぐらいのポジションにいるかがカギですね。

山本選手に関しては彼向きのコースなのでベスト10内を1つの目標にしています。片山選手は、ポイントとなる人工セクションをうまくこなせれば、結構良いところに行くんじゃないかと期待しています。」と2人の出来に手応えを感じているような話しぶりだった。今日コースでは片山のみが明日のレースに備えて最終調整を行った。

## ■女子 MTB クロスカントリー 片山梨絵は 20 位

ロンドンオリンピック自転車競技の最後の競技として今日11日に始まったマウンテンバイク。この日は女子クロスカントリーが、晴天のもと2万人を超える観客を集めて行われ、今年のU23の世界チャンピオン、フランスのジュリ・ブレセが金メダルを獲得した。日本から出場した片山梨絵は20位だった。

ロンドン中心部から60kmほど東に位置する丘陵地帯ハードレー・ファームが舞台となったマウンテンバイク競技。コースはこの丘陵のアンジュレーションを巧みに取り入れた1周4.82kmのサーキットで、途中数カ所に人工的に作った岩の路面や樹林の中のシングルトラックなど高いスピード能力と繊細なテクニックの両方を要する、まさにオリンピックにふさわしい難易度の高い構成となっている。

今日行われた女子は、440mのスタートループとサーキットを6周回で総距離29.26km(1周目のみ4.72km)の戦いとなった。レースは、UCIランキング上位者が並ぶ1列目・2列目スタートの選手が、ハイスピードで引張る形で進むが、3周目に入る辺りからトップ争いは、フランスのブレセ、北京大会金メダルのドイツのシュピッツ、そしてアメリカチャンピオンのゲールドの3人に絞られた。

4周目に入るとトップを引くブレセがピッチを上げ、追走するシュピッツ、ゲールドとの差を徐々に開いていく。そして5周目に入る時点で約20秒、6周目(最終周回)に入る時には約1分の差をつけ、最後は余裕の金メダルフィニッシュを果たした。2位には、ブレセから1分2秒後れてドイツのザピネ・シュピッツ、3位には1分8秒後れてアメリカのジョージア・ゲールドという結果だった。

日本の片山は、スタートが最後列の4列目ということもあって、スタートループから後方で追走を余儀なくされ、1周目を終わった段階ですですにトップと1分以上の差をつけられてしまった。結局片山はトップから7分34秒後れの20位。しかし初めてのオリンピックだった前回の北京大会では最終周回を前にタイムオーバーによるラップアウト(成績は今回と同じ20位)で涙をのみ、また今回のオリンピック

女子 MTB 20 位の片山



に向けては出場枠獲りに孤軍奮闘するも本予選では枠を得られずワイルドカードで果たしたという過程もあって、フィニッシュ後の片山の表情には結果のよしよしよりも走り遂げた充足感に満ちていた。

### □片山梨絵選手

「あっという間に終わっちゃいましたね。北京の時は完走できず悔しい思いをしたのですが、今回は完走できて良かったです。スタート前は良い感じの興奮状態でした。ここまで海外でのレース経験を積み重ねてきたので回りもみんな知っている選手だし変な緊張はありませんでした。レースは、やっぱりもっと前で走りたかったですね。最初のうちみんな結構焦っていてハンドリングがめちゃくちゃだったので、前に抜け出すチャンスはあると思っていたのですが、最初のテクニカルセクションに入る手前の位置取りで負けてしまい出遅れてしまいました。

でもロンドンを走れて良かったです。この4年間自分に対するいろいろな挑戦ができたので楽しかったし、またこれからの人生に絶対生きてくる経験ができたと思っています。競技は今年で最後と思いますが、これからは前から考えていた教職の道に進もうと思っています。自分が強くなろうと思ってやってきたことは、高校生などが社会に出る前に身につけるべきこととすごく共通点があると思うので、そういう分野で自分の経験を生かすことができればと思います。」

## ■男子 MTB クロスカントリー 山本幸平は 27 位

ロンドンオリンピック最終日の12日、自転車競技はマウンテンバイク男子クロスカントリーが、ロンドン東部エセックスのハードレー・ファームで行われた。レースはスタート後にまず1周

440mの短い周回ルートを巡り、その後1周4.82kmの本コースを7周(1周目のみ4.72km)、計34.08kmで争われた。優勝したのは、現世界チャンピオン(2011)のヤロスラフ・クルハビー(チェコ)。タイムは1時間29分7秒だった。日本から出場した山本幸平は6分19秒差で27位だった。

この日の天候は晴れ。気温21度。照りつける強い日差しには数字以上の暑さを感じた。午後1時30分、31カ国47人の選手がスタート。壮絶なポジション争いが繰り広げられる中、最初のコーナーを回る集団の中でいきなり落車が発生。4列目スタートの山本もまずこの混乱で後れをとってしまった。また今回最も注目を集めた選手、オリンピック3大会連続金メダルを目指して出場したフランスのアブサロンが、本コース1周目の岩場下りでパンクのトラブルに見舞われその後リタイヤ。そのアナウンスが流れたとき、今日も2万以上を集めた会場が一瞬どよめいた。

レースは1列目・2列目スタートの有力選手がハイスピードで引っ張る形で進み、序盤からサバイバルレースの様相を呈した。そんな中4周目に入っ

た辺りでクルハビーを含む5人がまとまって先行し後続との距離を開いていった。そして6周目、その集団からクルハビーと、今シーズンW杯に5戦出場して3回優勝というスイスの強豪シュルター、そしてイタリアチャンピオンのフォンタナが抜け出し、金メダル争いはいよいよ佳境に入った。最終周回、3人激しいせめぎ合いが続く中、周回半ばでフォンタナが脱落。残るはクルハビーとシュルター。2人は抜きつ抜かれつの壮絶なデッドヒートを繰り広げ、それはフィニッシュ直前のメインスタンド前まで続く。そして最後の最後にクルハビーがシュルターの追い上げを振り切り、金メダルを獲得となった。

スタート直後の落車の影響で後れをとった山本は、本コースの1周目を33位で通過。しかしそこから粘り強く自分をプッシュし続け、最後は27位でフィニッシュ。前回の北京大会では途中ラップアウトの悔しさにレース後涙も見せたが、今回は笑顔も交えた納得の表情でレースを終えた。

#### □山本幸平選手

「楽しかったです。今の力は出し切れませんでした。また1レース1レース力

をつけて世界に挑んでいきたいですね。スタートで落車に巻き込まれられてしまったんですけど、今日は追い込まないといけない日で、レースを諦める理由は1つもなかったの、ゴールだけを目指して走り続けました。レース前はやるしかないという気持ちでスタートラインに立ちました。精神状態もすごく良くて、前回の北京の時と比べると自分の成長を感じました。今は世界一のチーム(スペシャライズドレーシングチーム)に所属しているので、ここでもっと多くのことを学んで、もっと強くなるようにがんばっていきたいです。」

男子MTB 27位の山本



#### 【競技結果】

##### 第30回リリック競技大会

(2012/7/28-8/12 ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ・ﾛﾝﾄﾞﾝ)

##### ロードレース(2012/7/28-8/1)

###### 男子個人ロードレース(249.5km)

1	VINOKUROV Alexandr	KAZ	5:45:57
2	URAN URAN Rigoberto	COL	5:45:57
3	KRISTOFF Alexander	NOR	5:46:05
22	別府 史之	JPCA 柳川グリーンエッジ	5:46:05
48	新城 幸也	JPCA ヨーロッパカー	5:46:37

###### 女子個人ロードレース(140.3km)

1	VOS Marianne	NED	3:35:29
2	ARMITSTEAD Elizabeth	GBR	3:35:29
3	ZABELINSKAYA Olga	RUS	3:35:31
	萩原麻由子	和歌山CB あさひR.	DNF

###### 男子個人ロードタイムトライアル(44km)

1	WIGGINS Bradley	GBR	50:39.54
2	MARTIN Tony	GER	51:21.54
3	FROOME Christopher	GBR	51:47.87
24	別府 史之	JPCA 柳川グリーンエッジ	55:40.64

###### 女子個人ロードタイムトライアル(29km)

1	ARMSTRONG Kristin	USA	37:34:82
2	ARNDT Judith	GER	37:50:29
3	ZABELINSKAYA Olga	RUS	37:57:35

##### トラックレース(2012/8/2-7)

###### 男子スプリント

1	KENNY Jason	GBR
2	BAUGE Gregory	FRA
3	PERKINS Shane	AUS
9	中川誠一郎	JPCA JPCU 熊本

##### 男子ケリツ

1	HOY Chris	GBR
2	LEVY Maximilian	GER
3	van VELTHOOVEN Simon	NZL
3	MULDER Teun	NED
11	渡邊 一成	JPCA JPCU 福島

##### 男子チームスプリント

1	Great Britain	42.600
2	France	43.013
3	Germany	43.209
8	日本 新田・渡邊・中川	43.964

##### 男子4km団体追抜競走

1	Great Britain	3:51.659
2	Australia	3:54.581
3	New Zealand	3:55.952

##### 男子ホムニアム

1	HANSEN Lasse Norman	DEN	27p
2	COQUARD Bryan	FRA	29p
3	CLANCY Edward	GBR	30p

##### 女子スプリント

1	MEARES Anna	AUS
2	PENDLETON Victoria	GBR
3	GUO Shuang	CHN
17	前田佳代乃	鹿児島 鹿屋体育大学

##### 女子ケリツ

1	PENDLETON Victoria	GBR
2	GUO Shuang	CHN
3	LEE Wai Sze	HKG

##### 女子チームスプリント

1	Germany	GER	32.798
---	---------	-----	--------

2	China	CHN	REL
3	Australia	AUS	32.727

##### 女子3km団体追抜競走

1	Great Britain	GBR	3:14.051
2	United States	USA	3:19.727
3	Canada	CAN	3:17.915

##### 女子ホムニアム

1	TROTT Laura	GBR	18p
2	HAMMER Sarah	USA	19p
3	EDMONDSON Annette	AUS	24p

##### BMX(2012/8/8-10)

###### 男子BMX

1	STROMBERGS Maris	LAT	37.576
2	WILLOUGHBY Sam	AUS	37.929
3	OQUENDO ZABALA Carlos Mario	COL	38.251

###### 女子BMX

1	PAJON Mariana	COL	37.706
2	WALKER Sarah	NZL	38.133
3	SMULDERS Laura	NED	38.231

##### マウンテンバイク(2012/8/11-12)

###### 女子クロスカトリ-(29.3km)

1	BRESSET Julie	FRA	1:30:52
2	SPITZ Sabine	GER	1:31:54
3	GOULD Georgia	USA	1:32:00
20	片山 梨絵	神奈川県 神奈川スリースタース	1:38:26

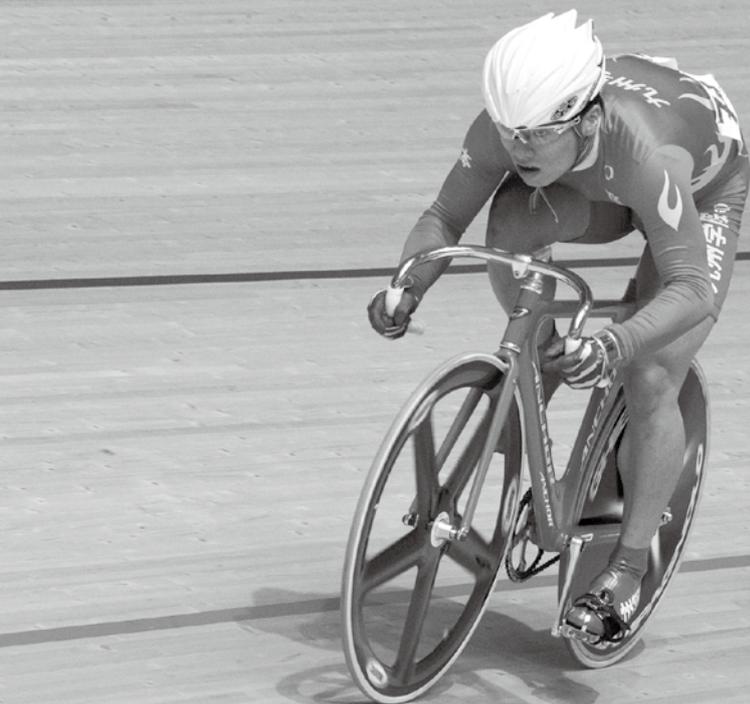
###### 男子クロスカトリ-(34.1km)

1	KULHAVY Jaroslav	CZE	1:29:07
2	SCHURTER Nino	SUI	1:29:08
3	FONTANA Marco Aurelio	ITA	1:29:32
27	山本 幸平	北海道 スリースタース	1:35:26

# 2012年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会



JOC カップは、瓜生崇智(男子)・三宅玲奈(女子)



JOC ジュニアオリンピックカップ受賞者  
男子：瓜生 崇智 女子：三宅 玲奈



昨年までは、全日本アマチュア選手権大会トラックレースと併催されていたJOCジュニアオリンピックカップが、本年から単独開催となり、日本唯一の屋内板張り250mバンクの伊豆ベロドロームで8月11日・12日に開催された。

昨年竣工以来、日本新記録が続出するこの会場、今大会では男女個人追抜競走で、三宅玲奈と鈴木康平が日本新記録を樹立した。

また、大会の最優秀選手に授与されるJOCジュニアオリンピックカップ、男子は1kmタイムトライアルとケイリンの2種目を制した瓜生崇智、女子は500mタイムトライアルと個人パーシュートを制した三宅玲奈が獲得した。





男子ジュニア ポイントレース 1位の原井 (先頭)



女子ジュニア ポイントレース 1位の元砂 (先頭)



男子ジュニア スプリント 1位の橋本 (右) と 2位の竹元



女子ジュニア スプリント 1位の蜂須賀杏南 (左) と 2位の藤野



女子 U17 500mTT 1位の鈴木



男子 U17 個人パーシュート 1位の安田



男子 U15 個人パーシュート 1位の蠣崎

### 【競技結果】

2012年 JOC ジュニアオリンピックカップ 自転車競技大会  
(2012/8/11-12 静岡・伊豆パドドーム)

JOC ジュニアオリンピックカップ 受賞者

男子：瓜生 崇智 熊本 九州学院高  
女子：三宅 玲奈 岡山 岡山工高

男子ジュニア スプリント

- 1 橋本 瑠偉 佐賀 龍谷高
- 2 竹元 太志 福岡 祐誠高
- 3 森 成良 香川 石田高

男子ジュニア 1kmTT

- 1 瓜生 崇智 熊本 九州学院高 1:06.764
- 2 野上 竜太 岡山 岡山工高 1:07.177
- 3 滝本 泰行 岡山 岡山工高 1:07.823

男子ジュニア ケリソ

- 1 瓜生 崇智 熊本 九州学院高
- 2 大石 剣士 静岡 伊豆総合高
- 3 大木 拓斗 福島 学法石川高

男子ジュニア 3km 個人パーシュート

- 1 鈴木 康平 静岡 星陵高 3:25.637

- 2 岡本 隼 和歌山 和歌山北高 3:35.201
- 3 吉田 優樹 福島 学法石川高 3:37.054

男子ジュニア スクラッチ (10km)

- 1 吉田 慶 広島 山陽高 12:48.82
- 2 齋藤 剣 愛知 愛工大名電高
- 3 黒滝 大翔 福島 岩瀬農高

男子ジュニア ポイントレース (15km)

- 1 原井 博斗 福岡 祐誠高 14p
- 2 岡本 隼 和歌山 和歌山北高 9p
- 3 久保田泰弘 山口 誠英高 6p

女子ジュニア 500mTT

- 1 三宅 玲奈 岡山 岡山工高 38.816
- 2 細田 愛未 埼玉 川越工高 39.469
- 3 柳本 愛奈 山梨 笛吹高 40.496

女子ジュニア スプリント

- 1 蜂須賀杏南 鹿児島 南大隅高
- 2 藤野 百萌 京都 北桑田高

女子ジュニア 2km 個人パーシュート

- 1 三宅 玲奈 岡山 岡山工高 2:33.596
- 2 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 2:40.375
- 3 柳本 愛奈 山梨 笛吹高 2:38.993

女子ジュニア ポイントレース (10km)

- 1 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 15p
- 2 日野 友葵 愛媛 ホンヤン飯田 11p
- 3 江藤里佳子 大分 別府商高 9p

男子 U17 1kmTT

- 1 伊藤 稔真 三重 朝明高 1:10.135

男子 U17 3km 個人パーシュート

- 1 安田 開 京都 北桑田高 3:47.540

男子 U17 ポイントレース (15km)

- 1 安田 開 京都 北桑田高 43p

女子 U17 500mTT

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵高 39.280

女子 U17 2km 個人パーシュート

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵高 2:43.328

男子 U15 1kmTT

- 1 蠣崎 優仁 静岡 沼津第三中 1:18.332

男子 U15 3km 個人パーシュート

- 1 蠣崎 優仁 静岡 沼津第三中 4:15.544

# 平成 24 年度全国高等学校総合体育大会

昭和第一学園が2連覇!!

男子ケイリン 1位⑤藤根 2位④小山 3位⑧門田



男子個人追抜 1位の伊藤



男子 4km 速度競走 1位の塩田



男子スプリント 1位の宮本(手前)と 2位の曾我



7月28日から、8月1日にかけて新潟県を舞台に平成24年度全国高校総合体育大会「2012年北信越かがやき総体」、及び秩父宮記念杯第63回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会、第57回全国高等学校自転車道路競走中央大会が、「今は希望とともに緑の大地をかけぬける!」を、スローガンに厳しい夏の日差しと暑さの中で、ロードは南魚沼市、トラック競技は弥彦競輪場で4日間の熱戦が繰り広げられた。

ロードの距離は123.2km、143名で特設の周回コースで行われ、個人ロードは地元新潟の県立吉田高校の片桐が、横浜高校の広瀬とのゴールスプリントを制し、優勝!! 学校対抗(ロード総体)も、地元県立吉田高校が優勝し、地域と一体となり大変な盛り上がりを見せた。

7月30日から8月1日まで、場所を弥彦競輪場に移し、トラック競技が開催され、ケイリンの藤根(紫波総合)、4km速度競走の塩田(栄北)、インディヴィデュアルパーシュートの伊藤(昭和第一)、スプリントの宮本(防府商・商工)が力強く各種目で優勝し、将来性を感じさせられた。

チームパーシュートは常に上位に入賞を果たしている和歌山北(和歌山)が安定した走りを見せ優勝、チームスプリントは春江工(福井)が力強い走りで制した。総合では昭和第一学園(東京)が優勝し、昨年に続き2連覇となった。

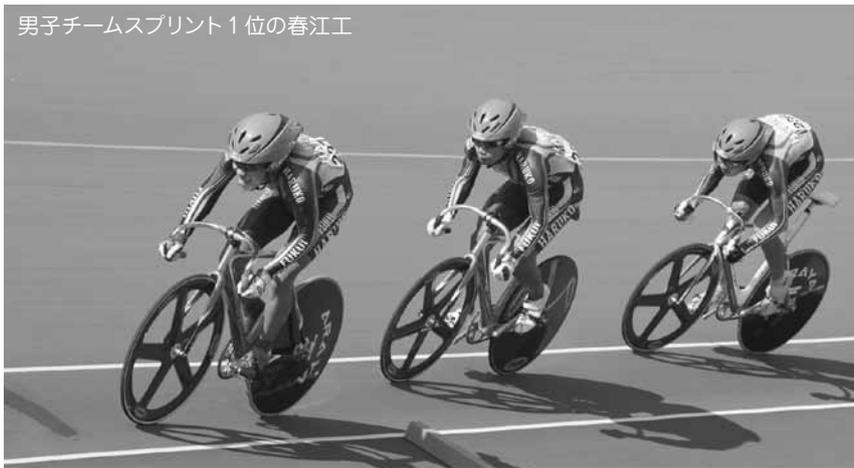
ジュニアのギャ比規制が、52×14になり、ギャを踏み込むだけの体力作り、フォーム作りの理論を取り入れれば、もっと記録的にも期待が出来るのではないかと思った。ジュニアの育成

強化は急務である。

又、女子エキシビジョンレースが、奈良、沖縄、秋田と続き、本大会から公開競技となり4年前と比べると、女子の競技レベルは向上しており、男子と同様、指導体制を整え、レベルアップに繋げていかなければならない。

最後に、場内には父兄をはじめ非常に多くの観客が集まり盛り上がりつつあったが、ルールのわかりやすい実況放送や、タイムの掲示の方法などをさらに工夫すれば、もっと自転車競技の面白さをわかり易く伝えられるのではないかと思った。

これからも、各関係者と意見交換をしながら、強化・広報を行い、さらに世界に向けて飛躍すべく国内の自転車競技を盛り上げていきたいと思う。(広報委員長・強化副委員長 塚本 芳大)



男子チームスプリント1位の春江工



男子団体追抜1位の和歌山北



男子スクラッチのフィニッシュ⑥が1位の青野



女子スクラッチ1位の元砂(先頭)

**【競技結果】**

平成24年度全国高等学校総合体育大会  
(2012/7/29-8/1 新潟・南魚沼 / 弥彦)

**男子スプリント**

- 1 宮本 隼輔 山口 防府商・商工
- 2 曾我 圭佑 熊本 九州学院
- 3 野上 竜太 岡山 岡山工

**1kmタイムトライアル**

- 1 瓜生 崇智 熊本 九州学院 1:06.790
- 2 佐伯 亮輔 鳥取 倉吉西 1:06.999
- 3 堀 兼壽 岐阜 岐阜第一 1:07.478

**男子ケリツ**

- 1 藤根 俊貴 岩手 紫波総合
- 2 小山 兼司 福岡 祐誠
- 3 門田 凌 愛媛 松山聖陵

**男子3km個人追抜競走**

- 1 伊藤 和輝 東京 昭和一学園 3:32.718
- 2 鈴木 康平 静岡 星稜 3:33.688
- 3 渡邊翔太郎 岐阜 岐南工 3:37.212

**男子4km速度競走**

- 1 塩田 航平 埼玉 栄北 4:56.300
- 2 久保田泰弘 山口 誠英
- 3 岡本 隼 和歌山 和歌山北

**男子スクラッチ(8km)**

- 1 青野 将大 香川 高松工芸 11:21.210
- 2 霧 良生 福岡 祐誠
- 3 澤池 陵二 長崎 鹿町工

**男子ポイントレース(24km)**

- 1 小林 泰正 群馬 高崎工 52p
- 2 安原 大生 奈良 榛生昇陽 46p
- 3 片桐 善也 新潟 吉田 13p

**男子チームスプリント**

- 1 春江工 末本・廣瀬・中川 1:19.636
- 2 九州学院 瓜生・北口・曾我 1:19.940
- 3 誠英 清水・安本・久保田 1:19.187

**男子4km団体追抜競走**

- 1 和歌山北 岡本・中野尻・森口・住田 4:32.168
- 2 昭和一学 伊東・山本・西村・馬渡 4:33.300
- 3 鹿町工 山内・岩本・山口・岡本 4:37.827

**女子ケリツ(公開競技)**

- 1 三宅 玲奈 岡山 岡山工
- 2 小川 美咲 静岡 伊豆総合
- 3 斉藤 望 宮城 古川工

**女子スクラッチ(6km) 公開競技**

- 1 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽 8:26.580
- 2 山本 レナ 京都 北桑田
- 3 竹井 史香 香川 津田

**女子チームスプリント(公開競技)**

- 1 選抜A 小川・斉藤 1:01.319
- 2 選抜B 福田・蜂須賀 1:03.299
- 3 選抜C 中嶋・竹井 1:04.394

**女子3km団体追抜競走(公開競技)**

- 1 選抜A 三宅・細田・江藤 3:51.182



# 競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

## 第32回西日本学生選手権トラック自転車競技大会 (2012/5/5-6 京都・向日町競輪場)

### 男子スプリント

- 1 野口 正則 奈良 鹿屋体育大
- 2 畑段 嵐士 京都 同志社大
- 3 松本 貴治 愛媛 朝日大

### 男子1kmタイムトライアル

- 1 木村知多賀 愛知 名古屋産大 1:08.449
- 2 沼田 明久 山梨 朝日大 1:09.560
- 3 坂井 篤 京都 同志社大 1:11.036

### 男子ケイリン

- 1 奥村 諭志 岡山 鹿屋体育大学
- 2 柴崎 俊祐 山口 鹿屋体育大学
- 3 山田 智大 兵庫 中京大

### 男子4km個人追抜競走

- 1 矢野 智哉 岐阜 朝日大 4:59.707
- 2 吉岡 直哉 京都 京都産業大 5:01.298
- 3 中根 英登 愛知 中京大 5:00.877

### 男子スクラッチ(10km)

- 1 角 優介 青森 朝日大 12:46
- 2 吉田幸太郎 宮城 朝日大
- 3 宮内 渉 愛媛 環太平洋大

### 男子ポイントレース(24km)

- 1 木村 圭佑 滋賀 京都産業大 23p
- 2 前園 浩平 愛媛 立命館大 20p
- 3 保坂陽次郎 茨城 朝日大 16p

### 男子チームスプリント

- 1 鹿体大 野口・緒方・奥村 1:19.247
- 2 朝日大 廣田・上遠野・松本 1:20.754
- 3 名産大 木村・藤本・山本 1:22.580

### 男子4km団体追抜競走

- 1 朝日大 今西・谷岡・矢野・原井 4:46.204
- 2 京産大 吉岡・木村・鍵本・田中 4:46.631
- 3 環太大 小村・内原・館石・吉元 4:46.945

### 女子500mタイムトライアル

- 1 廣本 茜梨 大分 環太平洋大 40.471
- 2 野村くるみ 石川 北陸大 41.906
- 3 森 沙耶香 大分 朝日大 42.291

### 女子スプリント

- 1 廣本 茜梨 大分 環太平洋大
- 2 森 沙耶香 大分 朝日大

### 女子3km個人追抜競走

- 1 福本 千佳 大阪 同志社大 4:25.815
- 2 鈴木 遊 鳥取 朝日大 4:27.001
- 3 浅田 聖奈 愛知 中京大 4:34.631

### 女子チームスプリント

- 1 朝日大学 鈴木・森 1:05.91

## 第52回東日本学生選手権自転車競技大会 (2012/5/12-13 山梨・境川自転車競技場)

### 男子スプリント

- 1 橋本 凌甫 東京 日本大
- 2 野口 裕生 東京 中央大

- 3 坂本 佳哉 青森 日本大

### 男子1kmタイムトライアル

- 1 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 1:08.161
- 2 深瀬 泰我 静岡 法政大 1:08.678
- 3 森 一馬 和歌山 日本大 1:08.728

### 男子ケイリン

- 1 今井 一誠 東京 早稲田大
- 2 池野 健太 兵庫 中央大
- 3 末木 浩二 山梨 日本大

### 男子4km個人追抜競走

- 1 近谷 涼 富山 日本大 4:52.928
- 2 大中 巧基 京都 早稲田大 4:58.726
- 3 黒瀬 耕平 岡山 中央大 4:56.506

### 男子スクラッチ(10km)

- 1 出澤 拓也 神奈川 明治大
- 2 柴崎 達也 千葉 東北学院大
- 3 加藤 剛 宮城 明治大

### 男子ポイントレース(24km)

- 1 倉林 巧和 群馬 日本体育大 29p
- 2 佐々木勇輔 埼玉 早稲田大 18p
- 3 緑川 竣一 福島 中央大 18p

### 男子チームスプリント

- 1 中央大学 池野・野口・栗本 1:18.864
- 2 日本大学 森・高橋・坂本 1:19.870
- 3 東北学院 牧野・田代・門脇 1:21.157

### 男子4km団体追抜競走

- 1 中央大 黒瀬・緑川・神開・高士 4:28.066
- 2 早稲田 佐々木・谷口・大中・三浦 4:33.062
- 3 明治大 出澤・西沢・金井・中野 4:40.702

### 女子500mタイムトライアル

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 38.327
- 2 濱田 瞳 青森 法政大 39.229
- 3 丸田 京 東京 法政大 40.108

### 女子3km個人追抜競走

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 4:06.410
- 2 中村 妃智 千葉 日本体育大 4:10.370
- 3 合田祐美子 岡山 早稲田大 4:24.854

### 女子チームスプリント

- 1 日本体育大 古河・小島 59.599
- 2 法政大学 濱田・丸田 1:01.170

## 全日本学生トラックレース第3戦 (2012/5/19 静岡県伊豆半島)

### 男子200mFTT

- 1 橋本 凌甫 東京 日本大 11.18
- 2 松本 貴治 愛媛 朝日大 11.20
- 3 末木 浩二 山梨 日本大 11.30

### 男子1kmタイムトライアル

- 1 山内 厚二 埼玉 日本体育大 1:07.294
- 2 廣田 敦士 三重 朝日大 1:07.769
- 3 福沢 涼太 熊本 日本体育大 1:07.979

### 男子4km個人追抜競走

- 1 榎原 健一 愛知 中京大 4:48.421
- 2 緑川 竣一 福島 中央大 4:48.667
- 3 倉林 巧和 群馬 日本体育大 4:50.300

### 男子チームスプリント

- 1 朝日大学 廣田・上遠野・松本 49.958
- 2 日本体大 福沢・甲斐・山内 50.398
- 3 明治大学 水野・加藤・高橋 50.830

### 男子チームポイントレース

- 1 日体大 倉林・松本・河内・石川 4:33.255

- 2 明治大 出澤・西沢・中野・鈴木 4:34.712
- 3 中京大 中根・榎原・山田・阿曾 4:37.893

### 男子ポイントレース(15km) A組

- 1 倉林 巧和 群馬 日本体育大 20p
- 2 末木 浩二 山梨 日本大 17p
- 3 緑川 竣一 福島 中央大 17p

### 男子ポイントレース(15km) B組

- 1 西沢 倭義 京都 明治大 16p
- 2 三浦 康嵩 青森 早稲田大 16p
- 3 中野 俊喜 愛媛 明治大 7p

## 第14回修善寺カブ女子オープントラック&ロード大会 (2012/5/19-20 静岡・伊豆半島)

### 女子200mFTT

- 1 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 13.306
- 2 小島 蓉子 千葉 日本体育大 13.309
- 3 古河 麻美 福島 日本体育大 13.556

### 女子500mタイムトライアル

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 38.343
- 2 古河 麻美 福島 日本体育大 38.550
- 3 中村 妃智 千葉 日本体育大 40.320

### 女子2.3km個人追抜競走

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 3:54.549
- 2 中村 妃智 千葉 日本体育大 4:00.610
- 3 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 2:45.275 (2km)

### 女子ポイントレース(10km)

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 20p
- 2 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 12p
- 3 中村 妃智 千葉 日本体育大 6p

### 女子個人ロードレース(50km)

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 1:24:00
- 2 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 1:30:29
- 3 鈴木 遊 鳥取 朝日大 1:30:36
- 4 中村 妃智 千葉 日本体育大 1:30:46
- 5 合田祐美子 岡山 早稲田大 1:30:53
- 6 古河 麻美 福島 日本体育大 1:35:50

### 女子総合成績

- 1 小島 蓉子 千葉 日本体育大 6p
- 2 元砂七夕美 奈良 榛生昇陽高 12p
- 3 中村 妃智 千葉 日本体育大 17p

## 2012年全日本学生ロードレース・カブシリーズ第2戦 (2012/5/20 静岡・日本CSC 100km)

- 1 吉岡 直哉 京都 京都産業大 2:54:50
- 2 末永 周平 宮城 明治大 2:54:50
- 3 榎原 健一 愛知 中京大 2:54:50
- 4 岩井 航太 東京 立教大 2:54:50
- 5 安達 康将 福島 日本大 2:54:50
- 6 雨宮 正樹 山梨 日本大 2:54:50

## 第14回TOUR de 熊野 (2012/5/31-6/3 和歌山・熊野他)

### 個人総合順位

- 1 ハリアーニ・フォルツァト PPO 8:12:19
- 2 アルドンド・モリ・ジュリアン PPO 8:12:33
- 3 トマ・ルバ BGT 8:15:27
- 4 増田 成幸 宇都宮ブリッツェン 8:16:19
- 5 リケゼ・マクミリアーノ PPO 8:16:24
- 6 ショー・パトリック GEN 8:16:31

### ポイント総合

- 1 リケゼ・マクミリアーノ PPO 53p
- 2 リケゼ・マウロアベル PPO 45p

3	ショー・ハトリック	GEN	42p
<b>山岳賞総合</b>			
1	アルトンド・モレノ	PPO	30p
2	ハリアーニ・フォルツナト	PPO	19p
3	西園 良太	ブリヂストンアンカーサイクリング	12p

<b>チーム総合</b>			
1	チームニッポ		24:41:28
2	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム		24:48:32
3	宇都宮ブリツェン		24:49:44

<b>7000-ク (0.7km)</b>			
1	アンソニー・ジャコッポ	GEN	51.37
2	チャン・ジンラ	HKG	52.80
3	アヴェリン・マクシム	AMO	53.06
4	福田 真平	愛三工業レーシング	53.14
5	品川 真寛	愛三工業レーシング	53.20
6	盛 一大	愛三工業レーシング	53.22

<b>第1ステージ (114.1km)</b>			
1	リカーゼ・マクシミアノ	PPO	2:37:39
2	リカーゼ・マウロアール	PPO	2:37:39
3	辻 善光	チーム右京	2:37:39
4	アンソニー・ジャコッポ	GEN	2:37:39
5	ショー・ハトリック	GEN	2:37:39
6	アヴェリン・マクシム	AMO	2:37:39

<b>第2ステージ (119.2km)</b>			
1	ハリアーニ・フォルツナト	PPO	3:03:32
2	アルトンド・モレノ・ジュリアン	PPO	3:03:32
3	トマ・ルバ	BGT	3:06:34
4	増田 成幸	宇都宮ブリツェン	3:07:24
5	清水 都貴	ブリヂストンアンカー	3:07:24
6	ショー・ハトリック	GEN	3:07:41

<b>第3ステージ (100.0km)</b>			
1	リカーゼ・マウロアール	PPO	2:30:21
2	西谷 泰治	愛三工業レーシング	2:30:21
3	リカーゼ・マクシミアノ	PPO	2:30:21
4	ヴェイチ・イアック・マリウス	MTR	2:30:21
5	ショー・ハトリック	GEN	2:30:21
6	アヴェリン・マクシム	AMO	2:30:21

**2012年全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース (2012/6/17 秋田・大湯)**

<b>男子ロード (42km)</b>			
1	西園 良太	鹿児島 BS アンカー	53:17.227
2	佐野 淳哉	埼玉 NIPPO	53:36.337
3	西谷 泰治	愛知 愛三工業	53:39.368
4	盛 一大	愛知 愛三工業	54:36.885
5	窪木 一茂	和歌山 教育委員会	56:03.938
6	鳶田 義明	埼玉 UKYO	56:22.142

<b>男子U23 (30km)</b>			
1	椿 大志	東京 BS U23	38:46.396
2	郡司 昌紀	埼玉 中央大	39:52.383
3	長瀬 幸治	埼玉 鹿屋体大	39:55.737
4	佐々木 龍	神奈川 早稲田大	40:00.787
5	高宮 正嗣	北海道 鹿屋体大	40:08.872
6	山本 元喜	奈良 鹿屋体大	40:18.733

<b>男子ジュニア (21km)</b>			
1	西村 大輝	東京 昭和一学	28:44.039
2	内野 直也	埼玉 ハルマレ	29:30.684
3	伊藤 舜紀	北海道 ホンジャンス	29:33.981

<b>男子U17 (15km)</b>			
1	橋詰 丈	東京 昭和一学	21:40.834
2	小山 貴大	群馬 前橋育英	22:12.247
3	猿田 匠	埼玉 栄北高	22:18.376

<b>女子ロード (21km)</b>			
1	萩原麻由子	和歌山 あさひ	30:05.800
2	與那嶺恵理	茨城 フォルツァ!	30:58.981
3	上野みなみ	青森 鹿屋体大	31:25.198

<b>女子ジュニア (15km)</b>			
1	伊藤 杏菜	愛知 R.G.Japan	24:50.626
2	浅田 聖奈	愛知 中京大	26:00.251

<b>女子U17 (15km)</b>			
1	中村 千鶴	富山 UKYO	25:05.116

**2012年ツアーオブシンカラ日本代表選手団**

大会名	2012年ツアーオブシンカラ
開催場所	インドネシア・パドゥ
開催日程	2012年6月3日～10日
派遣日程	2012年6月2日～12日
代表選手団	
監督	高橋 松吉 (JCF強化コーチ)
メカニック	鬼原 積 (JCF強化スタッフ)
マッサー	森 典隆 (JCF強化支援スタッフ)
選手	六峰 亘 (大分・ブリヂストンアンカーサイクリングチームU23)
	寺崎 武郎 (福井・ブリヂストンアンカーサイクリングチームU23)
	秋丸 湧哉 (大阪・ブリヂストンアンカーサイクリングチームU23)
	清水 太己 (東京・ブリヂストンアンカーサイクリングチームU23)
	平井 栄一 (神奈川・ブリヂストンアンカーサイクリングチームU23)
	山本 元喜 (奈良・鹿屋体育大学)

**2012トラック大会 (ドイツ) 日本代表選手団**

大会名	2012トラック大会 (ドイツ・コトブス)
開催場所	ドイツ・コトブス
開催日程	2012年7月7日～8日
派遣日程	2012年7月3日～10日
代表選手団	
選手	中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)
	渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)
	新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島)
	前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)
監督	松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)
コーチ	坂本 勉 (ナショナルコーチ)
	村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)
メカニック	森 昭雄 (JCF強化スタッフ)
マッサー	柳 浩史 (JCF強化スタッフ)
アドバイザー	沖 美穂 (JCF強化アドバイザー)
通訳	増田恵美子 (JCF支援スタッフ)

新しい翼で、世界の空へ。



## 2012年ジュニアトラック世界選手権日本代表選手団

大会名 2012年ジュニアトラック世界選手権自転車競技大会  
 開催場所 ニューゼaland・インバーカーギル  
 大会日程 2012年8月22日～26日  
 派遣日程 2012年8月18日～28日  
 代表選手団

選手 清水 裕友(山口・誠英高校)  
 佐伯 亮輔(鳥取・倉吉西高校)  
 堀田 海人(三重・朝明高校)  
 高士 拓也(三重・中央大学)  
 伊藤 和輝(東京・昭和第一学園高校)  
 小林 泰正(群馬・高崎工業高校)  
 鈴木 康平(静岡・星陵高校)  
 監督 中田 将次(JCFジュニア強化育成部会員)  
 コーチ 坂井田米治(JCFジュニア強化育成部会長)  
 佐藤 孝之(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)  
 百々 敦史(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)  
 メカニック 山脇 靖宏(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)

## ●人事異動

□平成24年6月21日付  
 会長 富原 忠夫(辞任)  
 会長代行(副会長) 大島 研一(新任)  
 □平成24年3月31日付  
 総務部部长 山崎 史郎(退職)  
 総務部総務課 甲斐三南子(退職)  
 □平成24年4月1日付  
 総務部部长 菊田 聡(財団法人JKAより出向)  
 総務部財務課係員 上坂 益代(新任)  
 総務課課長補佐(兼) 業務部競技課課長補佐  
 松本 里香(←総務部係長兼競技課係員)  
 業務部競技課専門役 志摩 謙治(←業務部長)  
 業務部部长(兼国際事業推進室長) 大脇 恒夫(←国際事業推進室長)  
 業務部競技課係員 白崎 孝紀(←選手強化部)  
 選手強化部係員 浅川 洋子(新任)

## ●加盟団体事務局住所変更

## 北海道自転車競技連盟

〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西6丁目1-23 第二道通ビル5階 TEL: 011-251-1187 FAX: 011-232-4603

## 栃木県自転車競技連盟

〒320-0054 栃木県宇都宮市東戸祭1-2-7(一社)日本競輪選手会 栃木支部内 TEL: 090-4374-1640 FAX: 0287-37-2719

## 一般社団法人 埼玉県自転車競技連盟

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-50 TEL & FAX: 048-871-9433

## 山梨県自転車競技連盟

〒400-0215 山梨県南アルプス市上八田1299 山口 一樹 様方 E-Mail: wpppt448@yahoo.co.jp

## 福井県自転車競技連盟

〒918-8037 福井県福井市下江守町28 福井県立科学技術高校内 中樞 秀則 様方 TEL: 0776-36-1856 FAX: 0776-36-1871

## 大阪府自転車競技連盟

〒590-0077 大阪府堺市堺区中瓦町1-1-16 万字堂堺東店内 廣浦様方 TEL: 070-6680-0468 FAX: 072-221-0700

## 高知県自転車競技連盟

〒783-0006 高知県南国市篠原1818-1 コーポスカイラーク106 サイクルスペース南国 TEL & FAX: 088-855-7428

# 今、ニッポンには この夢の 力が必要だ。

オリンピック・パラリンピックは夢をくれる。夢は力をくれる。力は未来をつくる。私たちに今、この力が必要だ。ひとつになるために。強くなるために。ニッポンの強さを世界に伝えよう。それが世界の勇気になるはずだから。さあ、**2020年オリンピック・パラリンピックをニッポンに。来年9月7日、いよいよ開催都市決定!**



TOKYO 2020  
CANDIDATE CITY

特定非営利活動法人 東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会 公式HP: [tokyo2020.jp](http://tokyo2020.jp) 公式ツイッター&フェイスブック: [Tokyo2020jp](https://twitter.com/Tokyo2020jp) [facebook.com/tokyo2020.jp](https://facebook.com/tokyo2020.jp)

## 連盟の動き (7月上旬～8月中旬)

7月 3日 2012トラックドイツ遠征 日本代表選手団出発 於: ドイツ・コトブス 帰国→7/10  
 12日 第5回ジュニア強化育成トレーニングキャンプ トラック: 静岡(7/12-15) / ロード: 青森(7/13-15)  
 14日 第1級公認審判員(トラック&ロード)講習会 於: 渋谷(～16日)  
 18日 第1回広報委員会 於: 東京・日本自転車会館3号館3階  
 19日 第2回広報部会 於: 東京・日本自転車会館3号館3階  
 22日 ロンドン五輪代表選手団出発 ロード 於: ロンドン 帰国→7/31  
 25日 ロンドン五輪代表選手団出発 トラック 於: ロンドン 帰国→8/9  
 8月 7日 ロンドン五輪代表選手団出発 MTB 於: ロンドン 帰国→8/14  
 16日 ジュニアトラック世界選直前強化合宿 於: 静岡・伊豆ペロドローム(～18日)  
 18日 ジュニアトラック世界選日本代表選手団出発 於: ニューゼaland・インバーカーギル(～28日)  
 22日 第3回広報部会 於: 東京・日本自転車会館3号館3階



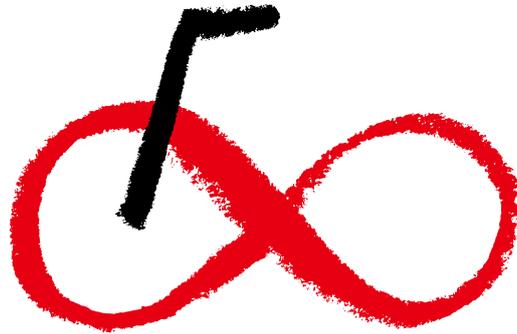
## 日本新記録

- スタンディングスタート・2km  
女子ジュニア 2分33秒053 三宅 玲奈 (岡山・岡山工業高校) 2012/08/11 静岡・伊豆ペロドローム
- スタンディングスタート・3km  
男子ジュニア 3分27秒520 鈴木 康平 (静岡・星陵高校) 2012/08/11 静岡・伊豆ペロドローム  
男子ジュニア 3分25秒637 鈴木 康平 (静岡・星陵高校) 2012/08/12 静岡・伊豆ペロドローム

### 今後の大会予定

期 日	大会 名	種 目	場 所
8月28日～9日	2012年UCIマウンテンバイク&トライアル世界選手権大会	MTB/TRIAL	オーストリア/ザールフェルデン・レオガンク
8月30日～8日	ロンドン2012パラリンピック競技大会	TR/RR	イギリス/ロンドン
8月30日～2日	文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	RR/TR	鹿児島/南大隅根占自転車競技場・錦江町
8月31日～2日	第4回全日本ステージ・レースinいわて	RR	岩手/八幡平
9月2日	第2回JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ	RR	栃木/渡良瀬遊水地
9月7日～9日	第47回全国都道府県対抗自転車競技大会	TR/RR	東京/立川・八王子、あきる野、檜原、奥多摩
9月15日～23日	2012年UCIロード世界選手権大会	RR	オランダ/リンブルグ
9月15日～17日	ツール・ド・北海道2012	RR	北海道/道北～道央
9月16日～17日	ジャパンシリーズJ1富士見パノラマ XCO#5/DHI#4	MTB	長野/富士見
9月22日	第46回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ	RR	広島/広島森林公園
9月23日	第1回JBCF女子チャンピオンシップ	RR	広島/広島森林公園
9月23日	第1回JBCFジュニアユースロードチャンピオンシップ	RR	広島/広島森林公園
9月29日	MTBジャパンシリーズウイングヒルズ白鳥リゾート J1/DHI#5	MTB	岐阜/郡上

無限の夢へ、走りだそう。



# RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業



London 2012



男子ロードの新城



女子ロードの萩原

< JCF オフィシャル・スポンサー >

PEARLIZUMI

ANCHOR

AEON

Kabuto

JINS

Meitan  
SuperAthlete

伊藤超短波

TokoMetal  
Multi Material Recycler

GOLDWIN

日商エステム

< オフィシャル・サプライヤー >

JAPAN AIRLINES

Vittoria  
the choice

CYCLOCHANNEL  
シクロチャンネル cycloch.net



シクリスムエコー No.192 ロンドン五輪特集号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/大島研一

編集人/塚本芳大

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>